

## 育った家庭環境と GRIT の関係性

1250440 倉内希乃羽

指導教員 小谷浩示

### 研究背景

GRIT は、長期目標に向けて情熱と忍耐力を保ち、継続的な努力を続ける気質であり、仕事の満足度、学業成績、幸福度の向上を予測する非認知的能力として注目されている。同様に、個人差のある GRIT をどのように向上させるかを研究する必要があると考えられる。しかし、既存研究において家庭環境の自己認知に着目し、育った家庭環境と GRIT の関係性に資する研究は十分に行われていない。

### 研究目的

本研究は、「育った家庭環境において、どのような要因が GRIT の向上に関係しているのか」を、家庭環境の主観的自己認知に基づいて明らかにすることを目的とした。

### 研究方法

社会人を対象に、育った家庭環境の主観的な自己認知と心理的情緒を定量的に測定する質問事項を用いて 150 名にアンケート調査・データ収集した後、統計解析を行った。

### 分析結果

育った家庭環境において、両親から十分に愛されていると感じた人々は、愛されていないと感じている人々に比して、GRIT が向上することが示唆された。また、social network scale（個人が感じる孤独感の大きさ）が小さいほど、GRIT により良い影響を及ぼす傾向が顕著であった。

### 考察・結論

本研究では、個人の主観的な自己認知を基に「育った家庭環境においてどのような要因が GRIT の向上に関係しているのか」を明らかにすることを目的とした。その結果、「両親からの愛の度合い」を十分に認知し、孤独感が少ないと認知している場合に、GRIT の向上に影響を与えることが示唆された。この結果から、両親からの心理的介入によって子供の GRIT スコアが大きく左右されると云う既存研究の信憑性が深まった事が示唆され、新たに子供の家庭環境に対する主観的認知と GRIT の関係性が深いことが明らかとなった。最後に、この発見から、両親からの愛情や孤独感の認知が GRIT に影響を与えるため、家庭内での子供への接し方やコミュニケーションのあり方を見直す必要があることについて論じた。